

できることから始めよう

風水害に備える

毎年、日本各地で台風や大雨による災害が発生し、尊い命が失われています。近年では、令和元年東日本台風(台風第19号)や平成27年関東東北豪雨により、市内でも住家被害や強風による倒木被害などが多数発生しています。

過去の災害からの教訓を踏まえ、風水害に備えましょう。

くわしくは 総務課 防災対策係 ☎02888-21-5166

◎災害発生に対する心構え

災害への備えには、自分で自分の身を守る「自助」、近所や地域などで助け合う「共助」、市役所や消防署などの行政機関による「公助」の連携が大切です。生命や財産を守るための備えを考えましょう。

☑ 平常時には

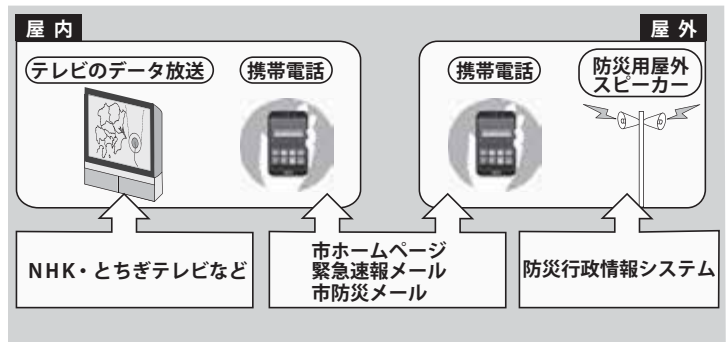
避難場所や避難経路、危険箇所(ハザードマップを活用)、自治会内の連絡網などを確認しておきましょう。

昨年3月に配布した「わが家の防災行動マニュアル」をご家族で読んでみてください。

☑ 災害発生前の準備

台風などによる大雨や強風が予想される場合は、周囲の様子に注意して、気象警報などの情報を確認するよう努めましょう(※図1)。非常持出品(懐中電灯やラジオ、飲料水・食料など)も用意し、いつでも避

図1：情報の入手方法



難できる準備をしておきましょう。

☑ 土砂災害の前兆現象(※図2)を確認したら

市役所や消防署に状況を連絡し、自治会長や地域住民など周囲の人たちに注意を促しましょう。

☑ 自主的な避難行動を

土砂災害警戒区域では、

図2：土砂災害の前兆現象

<p>土石流</p> <ul style="list-style-type: none"> ●山鳴りがする ●川が濁る ●倒木が流れてくる ●降雨時、川の水量が減る 	<p>がけ崩れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●小石がバラバラと落ちる ●水が湧き出る ●がけや斜面に割れ目が発生する 	<p>地すべり</p> <ul style="list-style-type: none"> ●沢水や井戸の水が濁る ●地面にひび割れや陥没が発生する ●家具の建て付けに異常が起きる
---	---	---

常に最新のハザードマップなどを確認し、危険と感じたら地域で声をかけ合い、区域外に避難しましょう。その他の地域では、周囲の状況を確認し、支援が必要な方の避難に協力しましょう。また、地域の公民館などの避難場所では、地域内住民の安否確認と情報収集に協力しましょう。

☑ 避難の際の注意事項

避難の前には、必ず火の始末をしましょう。また、電化製品の電源を切るだけでなく、ブレーカーを落とすなど、火災の防止に努めましょう。

避難の際の持ち物は背中に背負える程度の最小限にとどめ、両手を自由にしましょう。また、長靴は水が入ると歩きにくくなるので避けた方が無難です。

☑ 災害をやり過ぎたために

避難は、周囲の状況を確認し、早め早めの行動が大切です。

しかし、夜間の豪雨による道路の冠水や土砂崩れなどの発生時は、無理に避難場所まで移動すると二次災害の恐れがあり、危険な場合もあります。そのような場合は、自宅の2階に避難(垂直避難)するなど災害をやり過ぎずことも重要です。

普段から家族や地域で話し合い、協力できる体制を築いておきましょう。



市の防災メール配信をご利用ください

市は、市内の気象や地震などの情報をはじめ、交通情報等の災害関連の情報を皆さんへ伝える手段として、メール配信サービスを行っています(通信料は登録者負担)。

災害に備え事前に登録しておきましょう。

↓登録はこちらから↓

【パソコンから】

<https://service.sugumail.com/nikko-bousai/member/>

【携帯電話・スマートフォンから】

touroku-nikko-bousai@sg-m.jp、または右のQRコードを読み取り、**防災メール登録**空メールを送信してください。仮登録のメール受信後、本登録が必要です。 **QRコード▶**



土のうステーションをご利用ください

くわしくは 消防本部 総務課 ☎0288-21-0186

市は、平成27年9月に発生した関東・東北豪雨による水害を踏まえ、市内20カ所に土のうステーションを設置しています。設置場所は今市地域に6カ所、日光地域に2カ所、藤原地域に7カ所、足尾地域に1カ所、栗山地域に4カ所です。詳しい場所などは、市ホームページをご覧ください(「日光市 土のうステーション」で検索)。

ステーションには、1台につき1袋約15kgの土のうが約60袋入っています。水害時に各家庭で自由に使用してください。なお、使用した土のうは、各家庭で保管をお願いします。

